



## 株式会社日本バイオリサーチセンター

Nihon Bioresearch Inc.

〒501-6251 岐阜県羽島市福寿町間島6丁目104番地

TEL 058(392)2431 FAX 058(392)1284

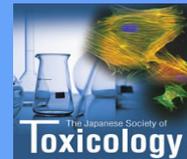
URL: <http://www.nbr.co.jp/>

## 第35回 日本トキシコロジー学会学術年會に 企業ブース展示とポスター発表します。

開催日時 : 2008年6月26日(木)~28日(土)

開催場所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター

発表演題は次の3題です。是非、ポスター発表と企業展示ブースへお立ち寄り下さい。



1) 長瀬 孝彦ら (ポスターA会場、P-077、6月27日(9:30~17:00、コアタイム(14:00~15:00))):

## ● 動物用血液分析装置XT-2000iVを用いたミニブタ血液検査の検討

私たちは、ミニブタを用いた安全性試験および薬効薬理試験において、バックグラウンドデータを集積している。今回は、動物用血液分析装置XT-2000iVとミニブタの血液の適用性について検討したので報告する。なお、この発表は、シスメックス株式会社 様との共同発表です。

2) 山田 恭史ら (ポスターA会場、P-127、6月28日(9:30~16:00、コアタイム(14:00~15:00))):

## ● ミニブタを用いた各種外用剤の皮膚刺激性試験 - ウサギおよびモルモットとの比較 -

前回の本学会において、抗菌剤および基剤の皮膚刺激性をミニブタ、ウサギ、モルモットで比較検討を行い、ミニブタがヒトに一番近い結果が得られた事を報告した。今回は、軟膏の基剤でもあるグリセリンおよび乳化剤に使用されるラウリル硫酸ナトリウムについて、比較検討したので報告する。

3) 伊藤 格ら (ポスターA会場、P-131、6月28日(9:30~16:00、コアタイム(14:00~15:00))):

## ● ウサギを用いる単回投与による血管周囲刺激性試験

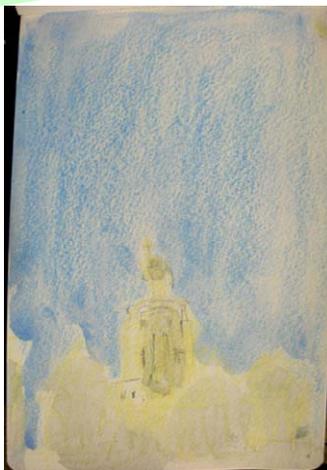
先の本学術年會において、注射剤の単回投与による血管刺激性を評価する方法として、注入法(シリンジポンプを用いて被験物質を一定時間注入する方法)が有用であることを報告した。一方、静脈内投与では、注射剤が皮下に漏れる可能性がある。そこで、注射剤の安全性評価方法の1つとして、血管刺激性試験で陽性対照物質として汎用される Bromosulphthalein sodium (BSP) を静脈周囲皮下に単回投与してその局所傷害性を検討するとともに、その検出力を静脈内投与と比較検討したので報告する。

お知らせ:

- ・ 次号予告 美白モデルについて。。。

佐部利 典彦のアートギャラリー(9)

岐阜県出身(1969~)



## 作品解説

作品タイトル:  
「メスキータ」技法:  
水彩、180×100mm

スペインをひとりフラフラ歩きながら、何か感じる場所をスケッチしました。城壁から少し見える塔と、広い空が印象的でした。

こちらから

(株)日本バイオリサーチセンター  
業務企画部の連絡先が入手できます。

## 『心の絆 - その9 -』

前号のこのコーナーで人の果たす大きな役割は地球上すべての生物が共生・共存できるように智慧を出すことと述べました。人と動物そして植物が共生・共存できる世界です。その為にはまず人同士が仲良くし平和な関係がないといけません。しかし残念ながら、肝心の人同士が仲良くできていません。今、世界中で戦争および紛争で人同士が戦っている国、地域が約20もありです。イラク、チェチェン、アフガニスタン、チモール、最近ではチベットなど民族や宗教の違いを理由に争っています。人と人が殺し合っています。また世界には核爆弾が2万7000発有ると言われています。この核爆弾の数は世界の人口66億人すべてを殺す力を持っています。核抑止力とは人が戦うことを前提とした考え方です。平和な日本では他人事のように思いがちですが全て同じ人の行為です。人と人の小さな争いが紛争や戦争に繋がっていきます。この現実の中で私たちに出来ることがあります。それは私たちの夫婦や家族を中心に会社や近所など身近な人同士が仲良く生活し合うことです。争いのない共生・共存の社会や世界はこの最小の身近な単位から始まります。